

静岡県立大学附属図書館

シリーズ 私の一冊の本

国際関係学部 津富 宏 先生

榎本 空 著

『それで君の声はどこにあるんだ?』

草薙 1F 閲覧室 191.9//E63 岩波書店

Nobody knows the trouble I' ve seen. 誰も知らない、この苦しみを

この本に響き続ける、黒人霊歌の一節である。私たちは、説明のつかない社会を生きている。生活が苦しくて大学を辞めなければいけない人がいる。それを仕方ないよねと言う人もいる。こんな社会を生きることにはどんな意味があるのだろうか。この本は、こうした問いを抱えながら生きる私たちの伴侶である。

筆者は、榎本空。彼は、アメリカに渡り、黒人神学、解放の神学を学ぶ。解放の神学とは、奴隷として収奪され、解放後もリンチを受けて木に吊るされ、政治への参加を阻まれ、今や、警察の暴力で命を奪われている人々の神学である。榎本の師、ジェームズ・コーンと言う。

Find your voice. 自分の声を見つけなさい。

そういわれて、榎本は自分のふるさと、沖縄の伊江島を思い出す。沖縄戦で住民の約半数が亡くなった地である。榎本は言う。埋葬という行為は死者に別れを告げるのではなく、生き残った者たちが、死者を記憶にとどめることであり、死者の痕跡を証することなのだ。そう、自分の声とは、生き残った者による、この世の不条理への応答である。榎本のもう一人の師、コーネル・ウェストは言う。

Never forget that justice is what love looks like in public. 公共の場において、愛は正義の形をとる。

憎しみに愛をもって応答するのだ。この不条理な社会を、私たちは愛をもって生き残る。榎本の学んだ、ユニオン神学校は、ブラック・ライブズ・マター運動を支える拠点となった。「この最も小さな者の一人にしたのは、すなわち、私にしたのである(マタイによる福音書 25章 40節)」。ここでいう私とはイエス・キリスト。イエスもまた、飢えている者、苦しんでいる者、居場所のない者本人である。

Said I wasn't gonna tell nobody. 誰にも言わないといったけど。

コーンの遺著のタイトルであり、この本に響き渡るもう一つの黒人霊歌の一節である。誰にも言わないといったけど、言わずにはいられない。私たちは、「この世の艱難」には屈しないと。この本は、なんのために生きるのかと、戸惑うあなたのための本である。この社会を生き延びよう。自分の声を見つけよう。